

水質環境基準の類型指定の見直しについて

横浜市内5河川(入江川、帷子川、大岡川、宮川、侍従川)

1 公共用水域の水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定について

環境基本法(平成5年法律第91号)第16条による水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全に関する環境基準については、「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号)に基づき、各公共用水域につき、利用目的等に応じ、環境庁長官又は都道府県知事が水域類型の指定を行うこととされており、神奈川県では昭和47年から順次水域の類型指定を行ってきた。

この水域類型指定については、水域の利用の態様の変化等事情の変更に伴い適宜改訂することとされている。

県内の公共用水域においては、類型指定当時と比べて水質改善が著しいことから、県として平成11年度から水域類型指定の見直し等に着手した。なお、平成10年8月には、神奈川行政監察事務所により見直しの実施について勧告がなされた。

今般、水質改善が著しい入江川、帷子川、大岡川、宮川及び侍従川の横浜市内5河川について見直しを行うこととする。

2 横浜市内5河川の流域概要と環境基準点における水質

(1)入江川

ア 概況

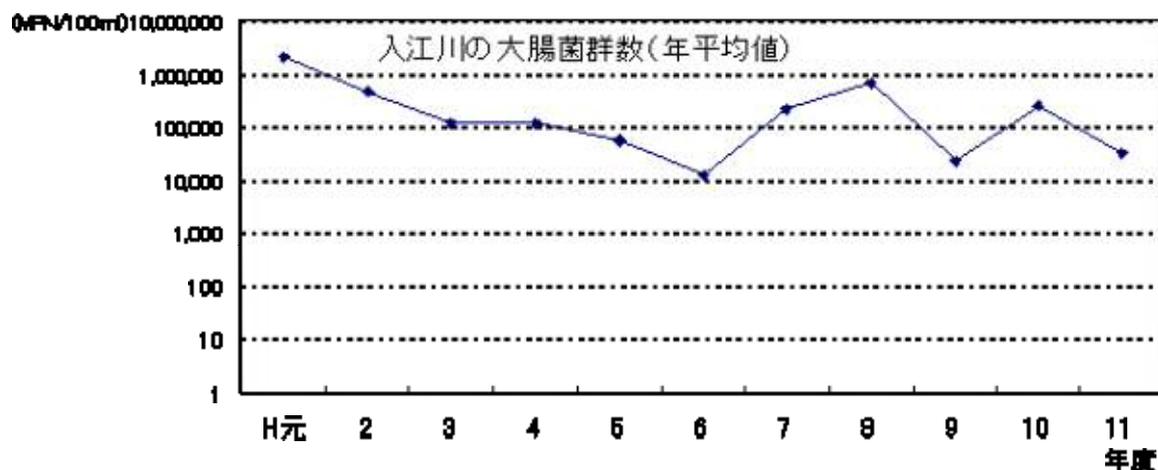
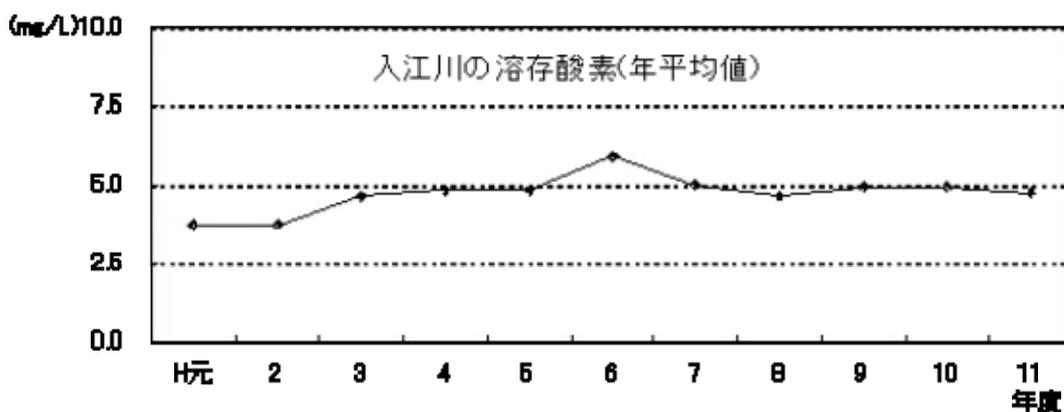
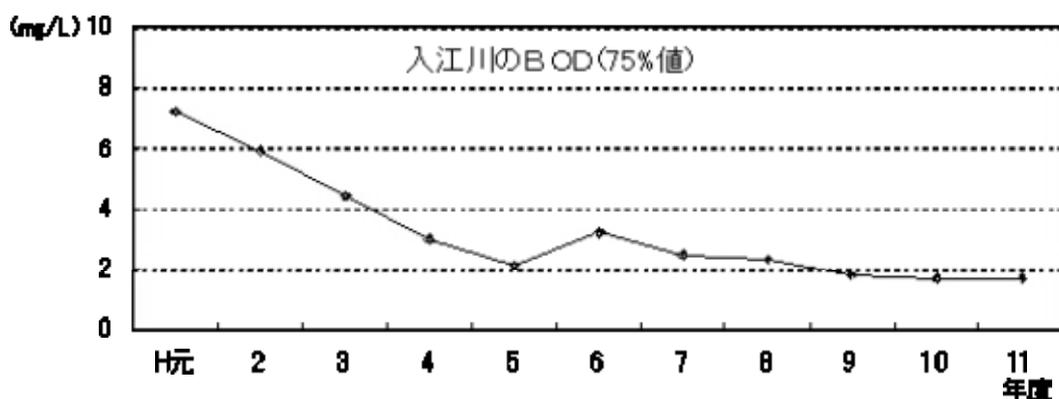
入江川は、流路延長約4.07km、流域面積10.07km²の準用河川である。

上流部は鶴見区、神奈川区、港北区に、下流部は神奈川区に位置しており、神奈川区が流域の63%と大部分を占める。

入江川水系は入江川本川と、河口部に人工的に造成されたいくつもの派川による運河域からなる。また、清らかな水流の復活や水量の確保と、水辺を生かしたアメニティを創造するため、神奈川下水処理場で高度に処理した下水処理水を入江川に流している。

イ 水質

現行類型	利水状況	環境基準点	水質(BOD75%値)mg/L		
			現状 平成9年度	将来予測	
				平成14年度	平成19年度
E類型 (BOD10mg/L以下)	環境保全	入江橋	1.7	1.7	1.8



(2) 帷子川

ア 概況

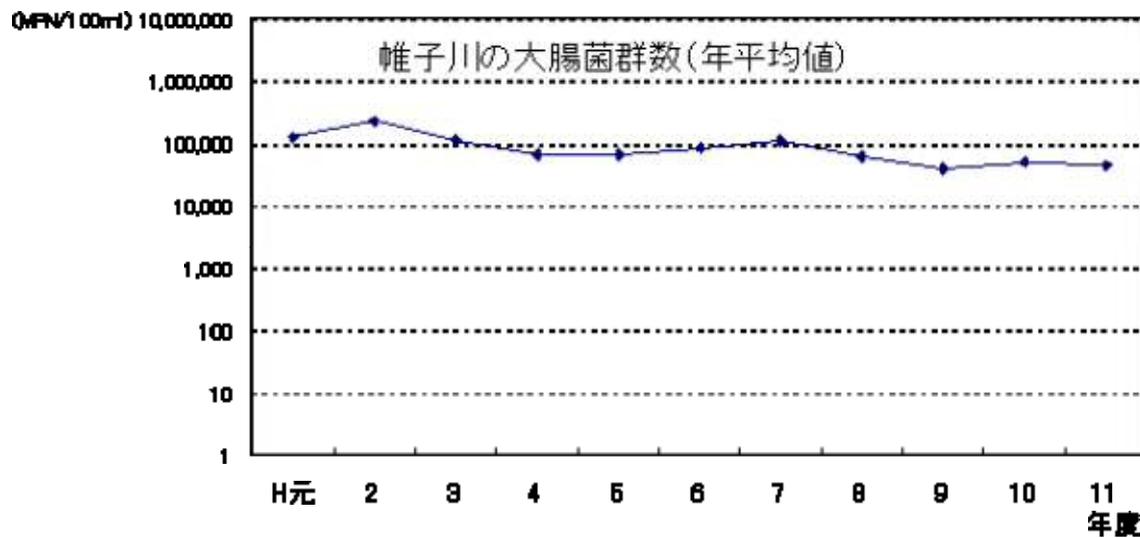
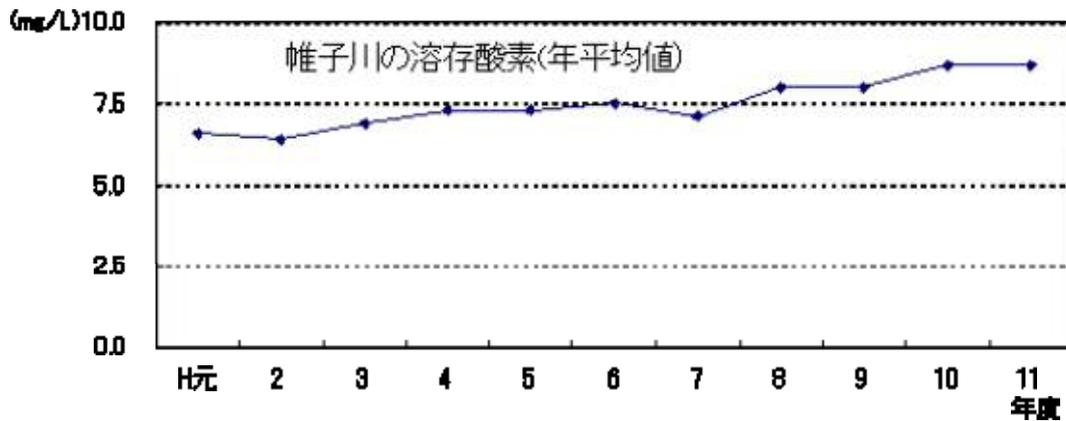
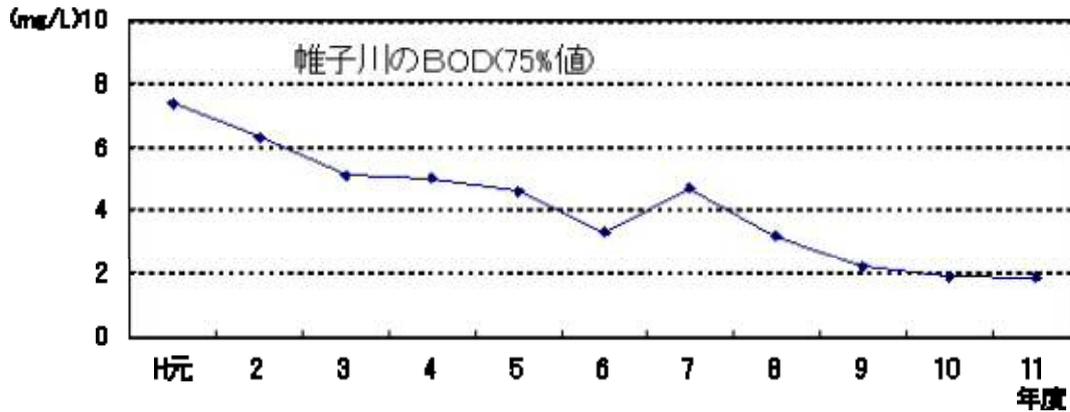
帷子川は、横浜市旭区若葉台付近に源を発する都市河川で、流路延長17km、流域面積58.59km²の二級河川である。

上流部は旭区、中流部は保土ヶ谷区、下流部は西区に位置しており、旭区が流域全体の57%と大部分を占めている

本川のほか上流域に堀谷戸川、矢指川、中流域には二俣川、中堀川、市沢川、くぬぎ台川、そして下流域では今井川と多くの支川を持ち、更に感潮域においては、本川及び新田間川、石崎川に分流した運河を形成する多様な流れを持つ水系となっている。

イ 水質

現行類型	利水状況	環境基準点	水質(BOD75%値) mg/L		
			現状 平成9年度	将来予測	
				平成14年度	平成19年度



(3)大岡川

ア 概況

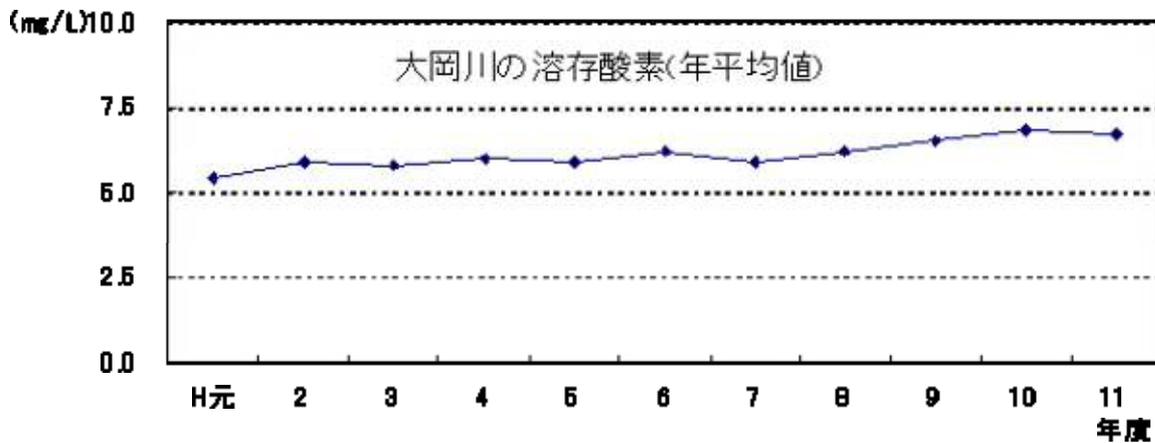
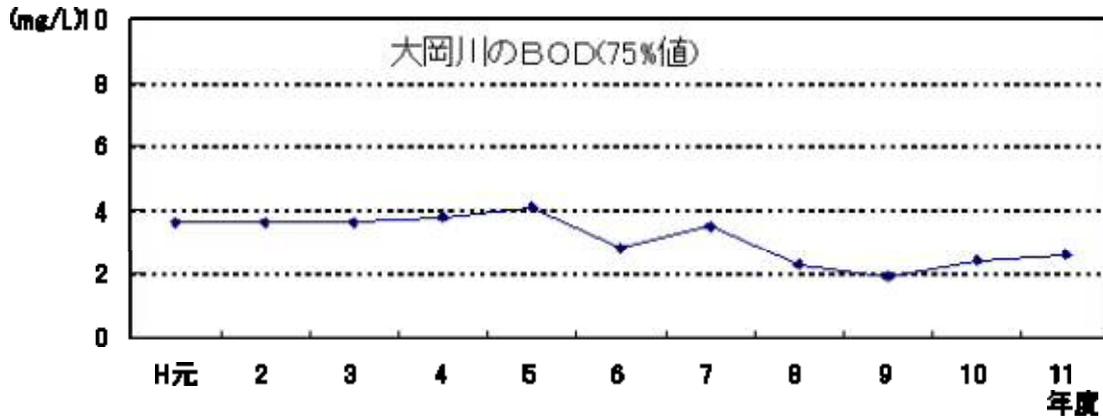
大岡川は、横浜市磯子区の円海山付近に源を発する都市河川で、流路延長約11.98km、流域面積35.56km²の二級河川である。

上流部は磯子区、中流部は港南区、下流部は南区に位置し、さらに河口付近は中区及び西区に位置しており、多くの区を流域に持つ河川である。

本川は中流域の港南区上大岡付近で日野川と合流し、下流の感潮域において本川と中村川に分流しさらに中村川は掘割川とに分流して横浜港へと注いでいる。

イ 水質

現行類型	利水状況	環境基準点	水質(BOD75%値)mg/L		
			現状 平成9年度	将来予測 平成14年度	将来予測 平成19年度
E類型 (BOD10mg/L以下)	環境保全	清水橋	1.8	1.8	1.8



(4)宮川

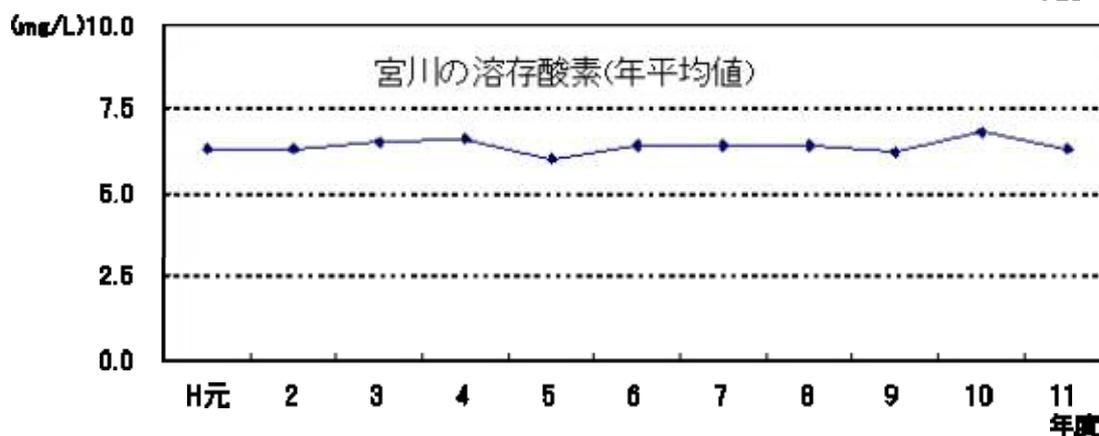
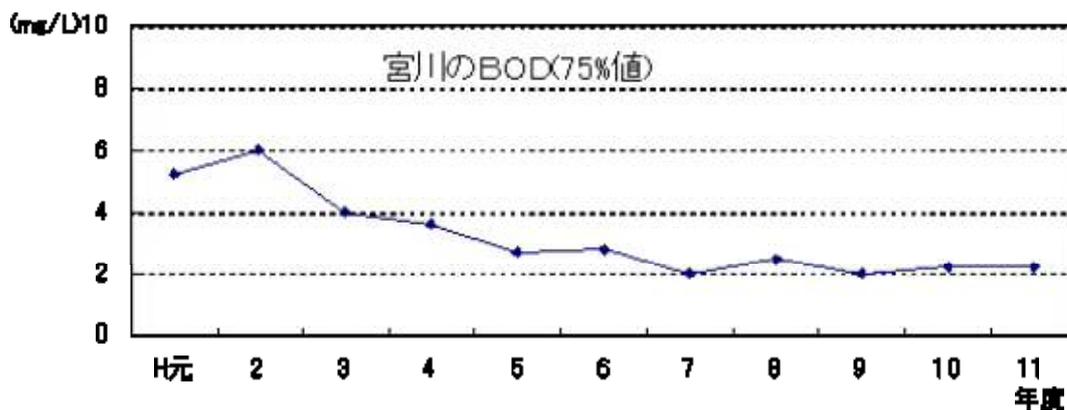
ア 概況

宮川は、横浜市金沢区の釜利谷遊水池にその源を発する都市河川で、流路延長約6.5km、流域面積は9.88km²の二級河川である。

流域は、横浜市金沢区中部に位置しており、金沢区の32%を占めている
 本川は南東に流れ、谷津川と合流して平潟湾へ注いでいる。上流付近は住宅地が整備されており、小川アメニティや水辺のプロムナードなど親水性の向上が図られている。

イ 水質

現行類型	利水状況	環境基準点	水質(BOD75%値)mg/L		
			現状 平成9年度	将来予測	
				平成14年度	平成19年度
E類型 (BOD10mg/L以下)	環境保全	瀬戸橋	2.0	1.8	1.8



(5)侍従川

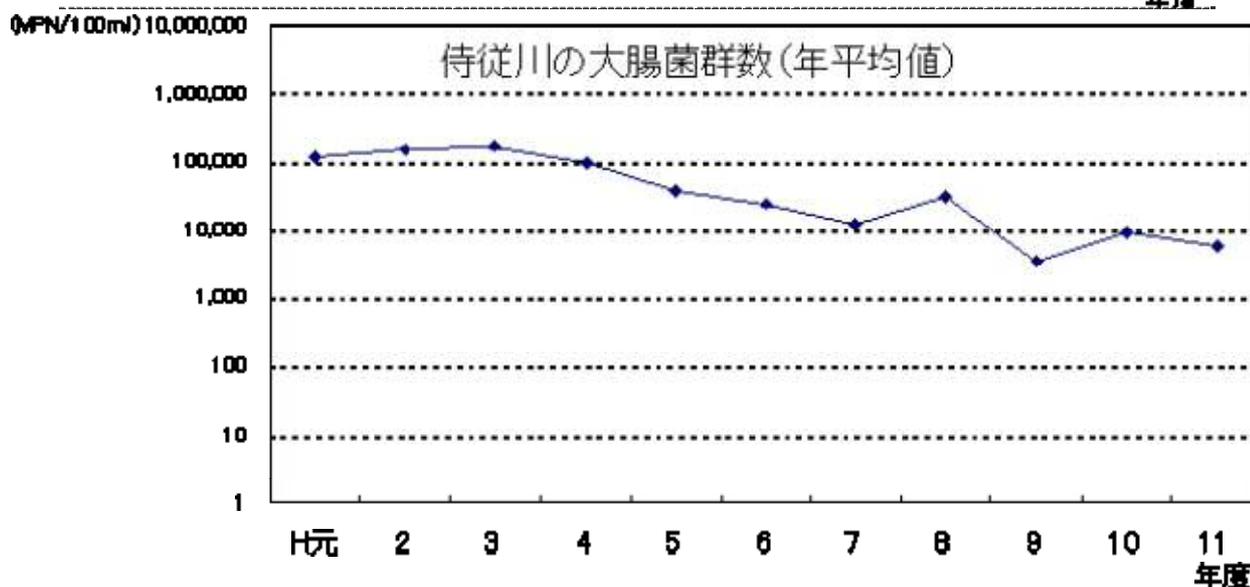
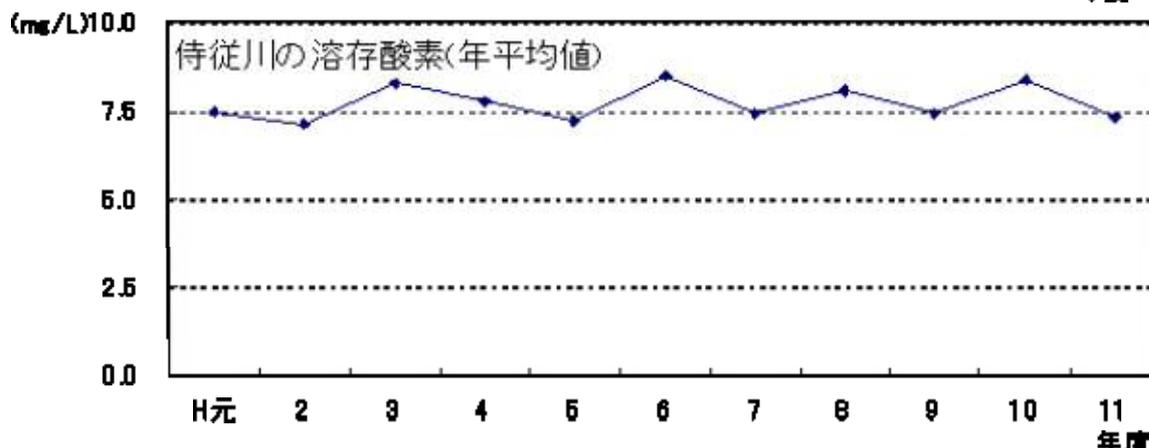
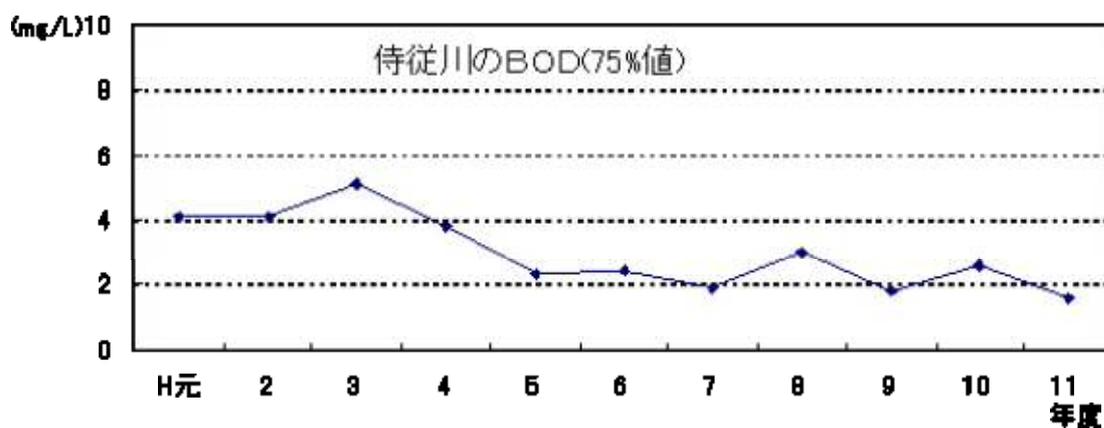
ア 概況

侍従川は、横浜市金沢区朝比奈町の丘陵地に源を発する都市河川で、流路延長約3km、流域面積約5.72km²の二級河川である。

流域は、横浜市金沢区南部に位置しており、金沢区全体の約18%を占めている。源流部には朝比奈緑地保全地区があるものの、河川周辺は市街化が進んでいる。本川は東に流れ、六浦川と合流して平潟湾へ注いでいる。

イ 水質

現行類型	利水状況	環境基準点	水質(BOD75%値)mg/L		
			現状 平成9年度	将来予測	
				平成14年度	平成19年度
E類型 (BOD10mg/L以下)	環境保全	平潟橋	1.8	1.7	1.7



3 横浜市内5河川の水域類型指定の見直し(案)について

水質環境基準の類型指定の見直しは、「現状非悪化の原則(昭和46年環境庁告示)」により、横浜市内5河川については、次のとおりとする。

- 利水状況は、現在及び将来とも、帷子川は環境保全及び工業用水3級、他の4河川は環境保全であり、利用目的の適応性からはE類型相当である。
- 水域類型指定の見直し(案)は、5河川とも最近5年間のpH、生物学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)はほとんどの年でB類型レベルにあり、現状水質を悪化させないということからB類型とする。

- 達成期間は、「直ちに達成」とするが、入江川については溶存酸素量(DO)がB類型を達成していないため、「5年以内で可及的速やかに達成」とする。
- 大腸菌群数については5河川ともB類型を達成しておらず、次の理由により「当分の間適用しない。」とする。
 - 流域には畜舎もほとんどなく、下水道整備が概ね100%である。
 - 大腸菌群数の基準は、水道や水浴のために設けられた基準である。
 - 大腸菌対策として河川水を直接塩素滅菌することは、水生生物への影響がある。

<現行>			<見直し>	
水域の名称 (範囲)	環境基準 点	現行類型 (達成期間)	見直し類型 (達成期間)	
入江川 (全域)	入江橋	E (5年を超える期間で 可及的速やかに達成)	B (5年以内で可及的 速やかに達成)	
帷子川 (全域)	水道橋	E (5年を超える期間で 可及的速やかに達成)	B (直ちに達成)	
大岡川 (全域)	清水橋	E (5年を超える期間で 可及的速やかに達成)	B (直ちに達成)	
宮川 (全域)	瀬戸橋	E (5年を超える期間で 可及的速やかに達成)	B (直ちに達成)	
侍従川 (全域)	平潟橋	E (5年を超える期間で 可及的速やかに達成)	B (直ちに達成)	

備考:大腸菌群数については、当分の間適用しない。

4 今後の水域類型指定予定

- 平成12年10月：横浜市内5河川の水域類型指定の告示
- 平成13年度：横須賀・湘南5河川（上位類型を達成している水域の見直し）
- 平成14年度以降：鶴見川他（本川の見直し及び支川の新規指定等）
多摩川支川（国の見直しに伴い支川の新規指定）
宮ヶ瀬湖、相模川支川（湖沼及び支川の新規指定）

[→ 記者発表資料に戻る](#)